

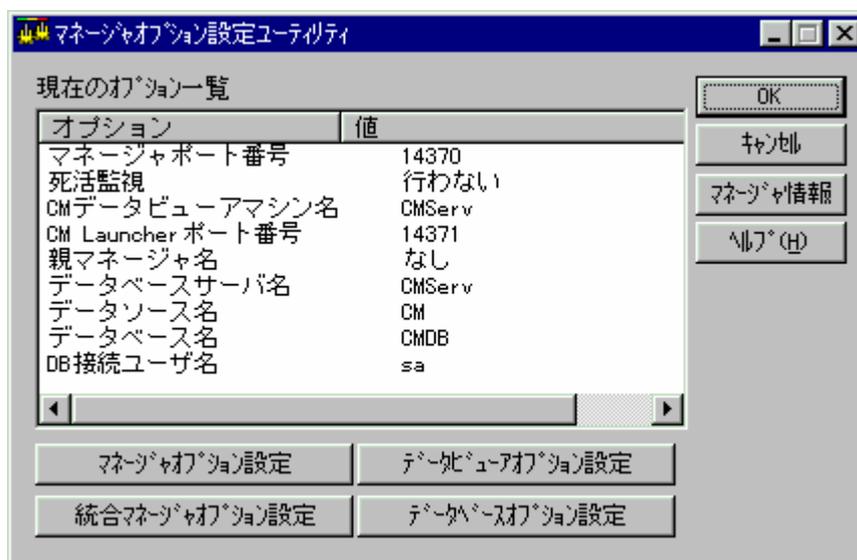
5 設定ツール

この章では、運用を始める前に設定する項目について説明します。この章で説明する項目は、運用中であっても設定を変更することが可能ですが、ClientManagerを運用する上での基本的な設定であり、セットアップ後最初に項目を確認してください。これらの項目はマネージャオプション設定ユーティリティ、クライアント設定ユーティリティ、アラートビューアを使用して設定を行います。

運用時の設定は通常CM GUI (CMデータビューア、CM管理ツール) を使って行います。運用時に設定する項目と手順については6章以降を参照してください。

5.1 マネージャオプション設定ユーティリティ

マネージャにおいて、「スタート」メニューから[プログラム] [ESMPRO_CM] [マネージャの設定]を選択することによりマネージャオプション設定ユーティリティが起動されます。マネージャオプション設定ユーティリティでは以下のような情報を表示します。



*現在のオプション一覧

現在設定されている項目と値が一覧表示されます。

* <マネージャオプション設定> ボタン

「CMマネージャオプション」画面を表示します。

* <データビューアオプション設定> ボタン

「CMデータビューアオプション」画面を表示します。

* <統合マネージャオプション設定> ボタン

「統合マネージャオプション」画面を表示します。

* <データベースオプション設定> ボタン

「データベースオプション」画面を表示します。

* <マネージャ情報> ボタン

「マネージャの情報」画面を表示します。

* <OK> ボタン

現在の設定を有効にし、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスを閉じます。

* <キャンセル> ボタン

現在の設定を破棄し、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスを閉じます。

5.1.1 CMマネージャオプション画面

「CMマネージャオプション」画面では以下のような情報を表示します。



* マネージャポート番号

CMマネージャコンポーネントの受信TCPポートを指定します。規定値は14730です。

* 死活監視を行う

死活監視処理を行う / 行わないを選択します。

* <OK> ボタン

設定を有効にし、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

* <キャンセル> ボタン

設定を破棄し、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

* <ヘルプ(H)> ボタン

ヘルプを表示します。

注意：ポート番号を変更した場合には、CM Manager Serviceの再起動が必要となります。

5.1.2 CMデータビューアオプション画面

「CMデータビューアオプション」画面では以下のような情報を表示します。



*起動マシン名

CMデータビューアを起動するマシンのマシン名を指定します。規定値はCMマネージャです。

*Launcherポート番号

CMデータビューアコンポーネントの受信TCPポートを指定します。規定値は14371です。

* <OK> ボタン

設定を有効にし、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

* <キャンセル> ボタン

設定を破棄し、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

* <ヘルプ(H)> ボタン

ヘルプを表示します。

注意：ポート番号を変更した場合には、CM Launcherの再起動が必要となります。

5.1.3 統合マネージャオプション画面

「統合マネージャオプション」画面では以下のような情報を表示します。



***親マネージャ名**

親マネージャのマシン名またはIPアドレスを指定します。

*** <OK> ボタン**

設定を有効にし、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

*** <キャンセル> ボタン**

設定を破棄し、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

*** <ヘルプ(H)> ボタン**

ヘルプを表示します。

5.1.4 データベースオプション画面

「データベースオプション」画面では以下のような情報を表示します。

この画面から必要時にデータベースのユーザ名、パスワードの変更を行います。



***DBサーバ名**

セットアップ時に設定した、データベースを配置したサーバのマシン名が表示されます。

***DB種別**

セットアップ時に設定したデータベースの種別が表示されます。

***データソース名**

セットアップ時に設定したODBCのデータソース名が表示されます。

***データベース名**

セットアップ時に設定したODBCのデータベース名が表示されます。

*SQL*NET

セットアップ時に設定したSQL*NET接続文字列が表示されます。

*ユーザ名

セットアップ時に設定したデータベースのユーザ名が表示されます。セットアップ後、変更の必要が生じた場合には、変更するユーザ名を設定します。

*パスワード

セットアップ時に設定したデータベースのパスワードが表示されます。セットアップ後、変更の必要が生じた場合には、変更するパスワードを設定します。

* <OK> ボタン

設定を有効にし、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

* <キャンセル> ボタン

設定を破棄し、「マネージャ設定ユーティリティ」ダイアログボックスに戻ります。

* <ヘルプ(H)> ボタン

ヘルプを表示します。

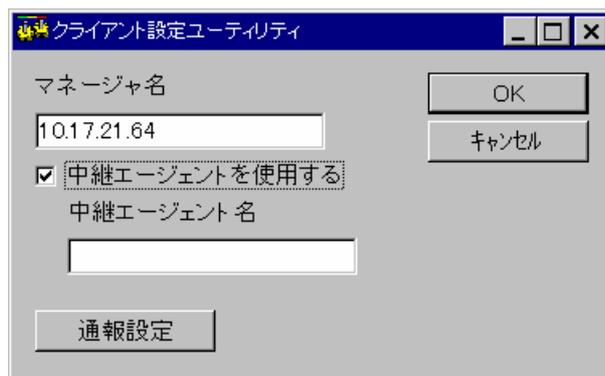
5.1.5 マネージャの情報画面

「マネージャの情報」画面では、以下のようなCMマネージャのバージョン情報を表示します。



5.2 クライアント設定ユーティリティ

クライアントPCにおいて、「スタート」メニューから[プログラム] [ESMPRO_CM] [クライアント設定ユーティリティ]を選択することによりクライアント設定ユーティリティが起動されます。



*** マネージャ名**

セットアップ時に設定したCMマネージャが動作しているサーバの名前またはIPアドレスが表示されます。

CMマネージャのマシンのIPアドレスを変更するには、SNMPのTRAPの送り先を変更した後この値を変更してください。

*** 中継エージェントを使用する**

セットアップ時に中継エージェントを設定した場合には、このオプションがチェックされた状態で表示され、CM中継エージェントが動作しているサーバの名前またはIPアドレスが表示されます。セットアップ時に中継エージェントを設定していない場合、このオプションをチェックし、中継エージェントのサーバ名またはIPアドレスを設定することにより、中継エージェントを使用するように設定を変更することが可能です。またセットアップ時に中継エージェントを設定した場合に、このオプションをクリアすることにより、中継エージェントを使用しないよう設定を変更することも可能です。

*** < 通報設定 > ボタン**

通報に関する設定を行います。「5.3 アラートマネージャ(設定ツール)」を参照してください。

アラートマネージャをインストールしなかった場合には、このボタンは表示されません。

*** < OK > ボタン**

入力された設定を有効にし、「クライアント設定ユーティリティ」ダイアログボックスを閉じます。

*** < キャンセル > ボタン**

入力された設定を破棄して、「クライアント設定ユーティリティ」ダイアログボックスを閉じます。

5.3 アラートマネージャ(設定ツール)

アラート通報機能の通報設定をすべて行います。

設定ツールを起動するには、クライアント設定ユーティリティを起動し、<通報設定> ボタンを押してください。



* 「ファイル」メニュー

「終了」を選択すれば、設定ツールを終了します。

* 「設定」メニュー

「通報基本設定」ダイアログボックス、「通報先リストの設定」ダイアログボックスを表示します。

* 「表示」メニュー

ツールバー、ステータスバーの表示/非表示の選択と、ツリー表示の切り替えを行います。イベントIDの10進/16進表示の切り替えも行えます。

* 「設定情報」メニュー

ESMPRO/AlertManagerをインストールした場合に有効になります。アラートマネージャの設定情報（通報基本設定、通報先IDの設定、監視イベント/アラートの設定等）をファイルから取り込むことができます。取り込みが可能な設定情報ファイルは以下の通りです。

1. 同一バージョンのアラートマネージャから書き出された設定情報ファイル
2. 以下のPPの混在環境が同一のアラートマネージャから書き出された設定情報ファイル
 - ESMPRO/AlertManager
 - ESMPRO/ServerAgent
 - ESMPRO/ServerManager

- ・ ESM/PRO/ClientManager
- ・ エクスプレス通報サービス

* 「ヘルプ」メニュー

アラート通報機能のヘルプトピックの検索およびバージョン情報を表示します。

* < 通報基本設定 > ボタン

「通報基本設定」ダイアログボックスを表示します。

* < 通報先リスト設定 > ボタン

「通報先リストの設定」ダイアログボックスを表示します。



* < ツリーの切り替え > ボタン

ツリー表示の切り替えを行います。

* メインウィンドウ

監視イベントの設定/通報先の指定/テストを行います。

メインウィンドウ左側には、ツリーが表示されます。ツリー表示には、「イベントログ」ツリーと、「DMIインディケーション」ツリーと「クライアントマネージャのイベント」ツリーの3種類があります。「表示」メニューまたは「ツリーの切り替え」ボタンによって、ツリーの切り替えを行います。

ツリー表示のソース名やイベントをマウスでクリックして、マウスの右ボタンをドラッグして表示されるメニューから設定を行います。設定情報は、メインウィンドウ右側にリスト表示されます。

監視イベントツリーの階層は以下のようになっています。

- [イベントログ種別]
 - [イベントソース名]
 - [イベントID]
 - 通報先ID(またはIDグループ)
 - 通報先ID(またはIDグループ)

イベントログ種別

イベントログ種別(システム/セキュリティ/アプリケーション)を表示します。

イベントソース名

監視対象のイベントソース名を表示します。

イベントID

監視対象のイベントID。イベントIDの左側にはイベントの種類(成功 , 情報 , 警告 , エラー )のビットマップを表示します。

通報先ID

通報先ID(またはグループ)を列挙します。通報先IDの左側には通報手段を意味するビットマップを表示します。

監視 DMI イベントツリーの階層は以下のようになっています。

- [コンポーネント名]
 - [クラス名]
 - [イベントの種類(イベントの重要度)]
 - 通報先 ID(または ID グループ)
 - 通報先 ID(または ID グループ)

コンポーネント名

コンポーネント名を表示します。

クラス名

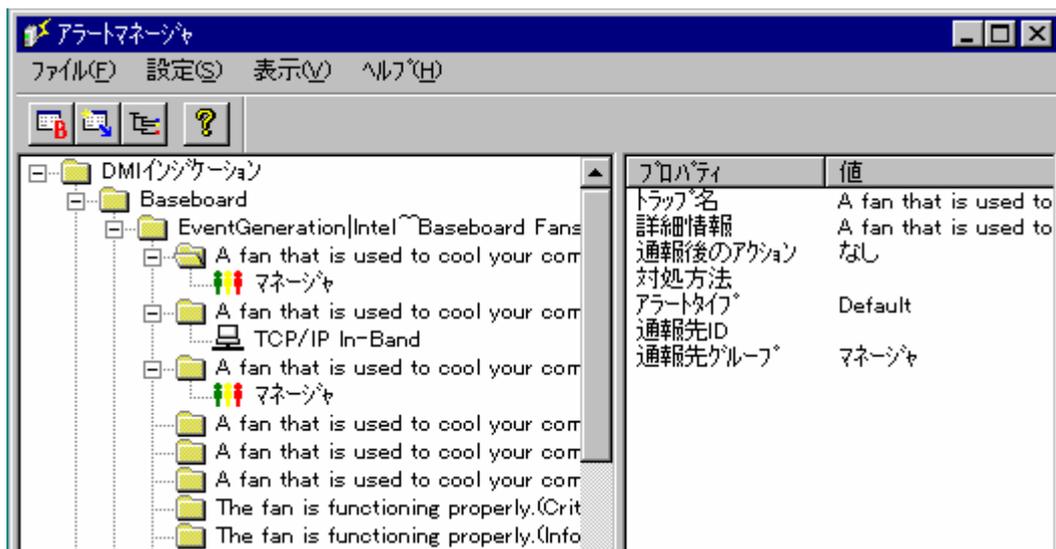
コンポーネントに属するイベント生成のクラスが列挙されます。

イベントの種類(イベントの重要度)

監視対象の DMI イベント(インジケーション)。“イベントの種類 (イベントの重要度)”の形式で表示します。

通報先 ID

通報先 ID(またはグループ)を列挙します。通報先 ID の左側には通報手段を意味するビットマップを表示します。



5.3.1 基本設定

通報手段/その他の基本設定を行います。

「設定」メニューの「通報基本設定」またはツールバーのボタンを選択して設定を行います。



(1) 通報手段の設定

アラート通報するためには、通報有効/無効ビットマップを緑色に変えてください。

*通報手段一覧

通報手段を示すビットマップ、通報有効/無効ビットマップが表示されます。

*通報手段ビットマップ

通報手段を意味するビットマップです。

 マネージャ通報(SNMP)

-  マネージャ通報(TCP/IP In-Band)
-  マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)

***通報有効/無効ビットマップ**

緑が通報有効、赤が通報無効を意味します。このビットマップをマウスでクリックすると、有効/無効が切り替わります。

-  (緑) [有効] その通報手段での通報を開始します。
-  (赤) [無効] その通報手段での通報を停止します。

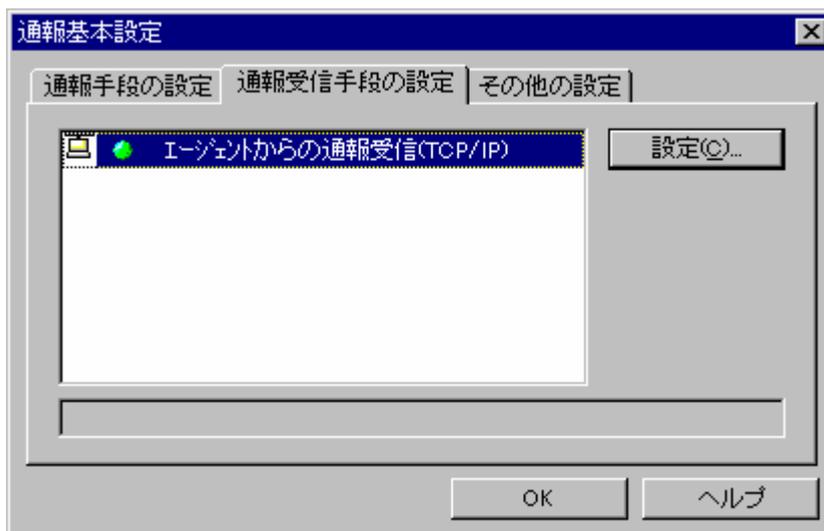
***通報手段の説明**

通報手段を選択すると、その通報手段の基本設定についての説明が表示されます。

*** <設定...> ボタン**

選択された通報手段の基本設定を行います。ただし、<設定...> ボタンを押下できない通報手段もあります。この場合、通報手段の説明の表示内容に従ってください。

(2) 通報受信手段の設定



アラート通報を受信するためには、通報受信有効/無効ビットマップを緑色に変えてください。

***通報受信手段一覧**

通報受信手段を示すビットマップ、通報受信有効/無効ビットマップが表示されます。

***通報受信手段ビットマップ**

通報受信手段を意味するビットマップです。

-  エージェントからの通報受信(TCP/IP)

***受信有効/無効ビットマップ**

緑が受信有効、赤が受信無効を意味します。このビットマップをマウスでクリックすると、有効/無効が切り替わります。

- (緑) [有効] その通報手段での受信を開始します。
- (赤) [無効] その通報手段での受信を停止します。

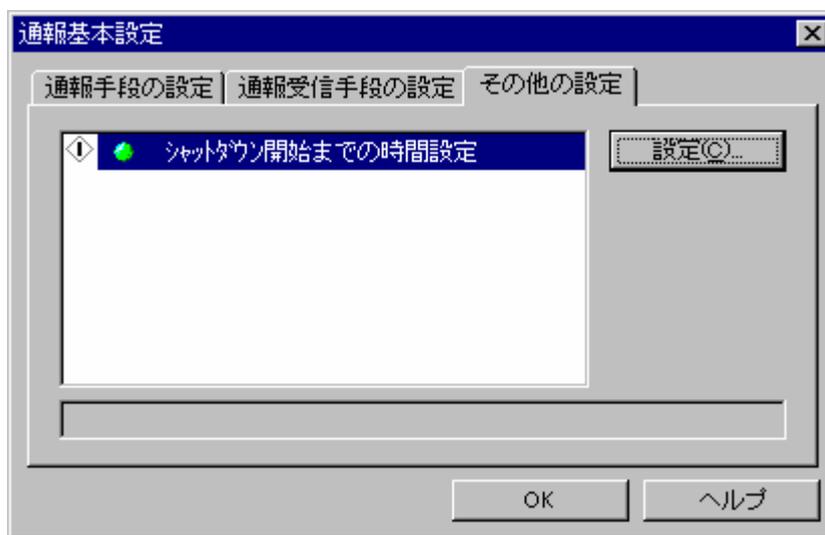
***通報受信手段の説明**

通報受信手段を選択すると、その受信手段の基本設定についての説明が表示されます。

*** <設定...> ボタン**

選択された通報受信手段の基本設定を行います。ただし、<設定...> ボタンを押下できない受信手段もあります。この場合、受信手段の説明の表示内容に従ってください。

(3) その他の設定



設定を有効にするためには、通報受信有効/無効ビットマップを緑色に変えてください。

***その他の設定一覧**

設定の内容を意味するビットマップ、設定有効/無効ビットマップが表示されます。

***設定ビットマップ**

設定の内容を意味するビットマップです。

- ◆ シャットダウン開始までの時間設定

***設定有効/無効ビットマップ**

緑が設定有効、赤が設定無効を意味します。このビットマップをマウスでクリックすると、有効/無効が切り替わります。

***設定項目の説明**

設定項目を選択すると、その設定項目についての説明が表示されます。

*** <設定...> ボタン**

選択された設定項目の基本設定を行います。

5.3.2 通報先設定

「設定」メニューの「通報先設定」またはツールバーのボタンを選択して設定を行います。

(1) 通報先リストの設定

設定した宛先IDおよびグループが一覧表示されます。



*ID一覧

通報先ID：通報先ID名が表示されます。

通報手段：通報手段が表示されます。

宛先情報：設定した宛先情報が表示されます。

*グループ一覧

通報先グループ：通報先グループ名が表示されます。

通報先ID：そのグループに含まれているIDの列挙が表示されます。

*IDの <追加...> ボタン

IDを追加します。押下すると、「ID設定」ダイアログボックスが表示されます。

*IDの <修正...> ボタン

ID一覧で選択したIDに対して、通報先の修正を行います。押下すると、「ID設定」ダイアログボックスが表示されます。

*IDの <削除> ボタン

ID一覧で選択したIDを削除します。

***グループの<追加...>ボタン**

グループを追加します。押下すると、「グループ設定」ダイアログボックスが表示されます。

***グループの<修正...>ボタン**

グループ一覧で選択したグループに対して、グループに登録するIDを修正します。押下すると、「グループ設定」ダイアログボックスが表示されます。

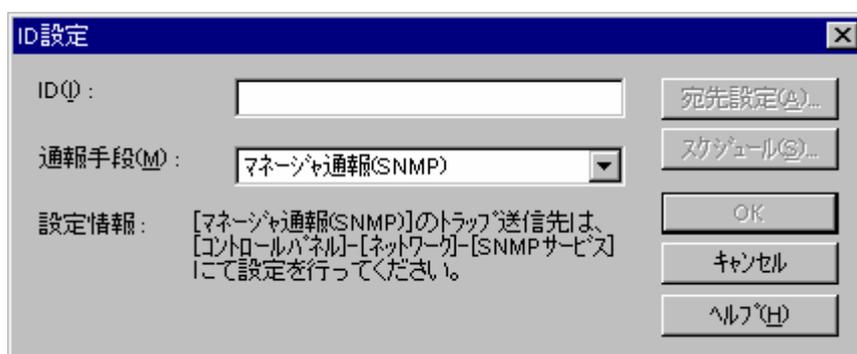
***グループの<削除>ボタン**

グループ一覧で選択したグループを削除します。

***<閉じる>ボタン**

「通報先リストの設定」ダイアログボックスを閉じます。

(2) ID設定



***ID**

ID名が表示されます。

***通報手段**

通報手段が表示されます。

***設定情報**

設定した通報先の情報が簡易表示されます。

[設定方法]

<追加の場合>

1. ID名を入力してください。
2. 通報手段を選択してください。
3. <宛先設定> ボタンが押下可能であれば、ボタンを押下して宛先を設定してください。
4. <スケジュール> ボタンを押下して、通報スケジュールの設定を行ってください。
5. <OK> ボタンを押下してください。

<修正の場合>

1. 必要に応じて<宛先設定>ボタンおよび<スケジュール>ボタンを押下して、宛先および通報スケジュールの設定を行ってください。
2. <OK>ボタンを押下してください。

注意：修正の場合、IDおよび通報手段の項目は淡色表示となり設定はできません。

(3) グループ設定



*グループ名

グループ名が表示されます。

*通報先IDリスト

通報先IDの一覧が表示されます。グループメンバーに含まれているIDは表示されません。

*グループメンバー一覧

グループのメンバーとして設定されているIDが表示されます。

*<追加>ボタン

ID一覧で選択されたIDを、グループメンバー一覧に移動します。

*<削除>ボタン

グループメンバー一覧で選択されたIDを、通報先IDリストに移動します。

[通報先リストの設定方法]

<追加の場合>

1. グループ名を入力してください。
2. 通報先IDリストから、グループのメンバーに含めたいIDを選択します。
3. <追加>ボタンを押下して、選択したIDをグループメンバー一覧に移動させてください。
4. グループメンバーから削除したいIDがあれば、グループメンバー一覧から削除したいIDを選択して、<削除>ボタンを押下してください。
5. <OK>ボタンを押下してください。

<修正の場合>

1. 通報先IDリストから、グループのメンバーに含めたいIDを選択します。
2. <追加>ボタンを押下して、選択したIDをグループメンバー一覧に移動させてください。
3. グループメンバーから削除したいIDがあれば、グループメンバー一覧から削除したいIDを選択して、<削除>ボタンを押下してください。
4. <OK>ボタンを押下してください。

注意：修正の場合、グループ名は淡色表示となり修正できません。

(4) スケジュール設定

The screenshot shows a dialog box titled 'スケジュール設定' (Schedule Settings). It has a 'リトライ設定' (Retry Settings) section with two spinners: 'リトライ間隔(D)' (Retry Interval) set to 5 and 'リトライ時間(T)' (Retry Time) set to 72. Below this is a '通報時間帯(R)' (Notification Time Zone) section with a grid of 24 cells. The cells from 8 to 18 are highlighted in blue. On the right side, there are three buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ(H)' (Help).

*リトライ間隔

通報リトライを行う間隔を1～30分の範囲で設定してください。初期設定は5分です。

*リトライ時間

最大リトライ可能時間を0～240時間の範囲で設定してください。初期設定は72時間です。

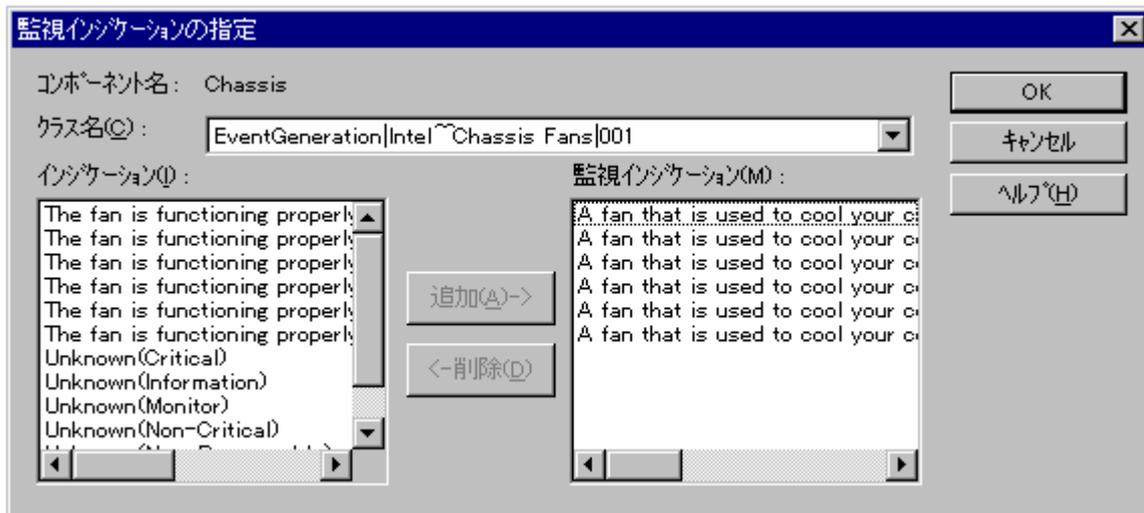
0を指定した場合、通報リトライを行いません。

*通報時間帯

通報時間帯を指定してください。指定した時間帯に発生した障害のみを通報します。時間設定は1時間単位で指定できます。最初は24時間通報可能となっています。

5.3.3 監視DMIイベントの指定

メインウィンドウでDMIイベントツリー(「DMIインジケーション」ツリー)のコンポーネント名またはクラス名をマウスでクリックし、マウスの右ボタンをドラッグして現れるメニューにて「監視インジケーションの指定」を選択して設定を行います。



* コンポーネント名

コンポーネント名が表示されます。

* クラス名

コンポーネントに属するイベント生成のクラスが列挙されます。

監視対象として追加/削除したいDMIイベント(インジケーション)のクラスを選択してください。

* インジケーション

選択されたクラス名のインジケーションが列挙されます。

インジケーションは、“イベントの種類(イベントの重要度)”の形式で表示されます。

* 監視インジケーション

通報対象のインジケーションが列挙されます。

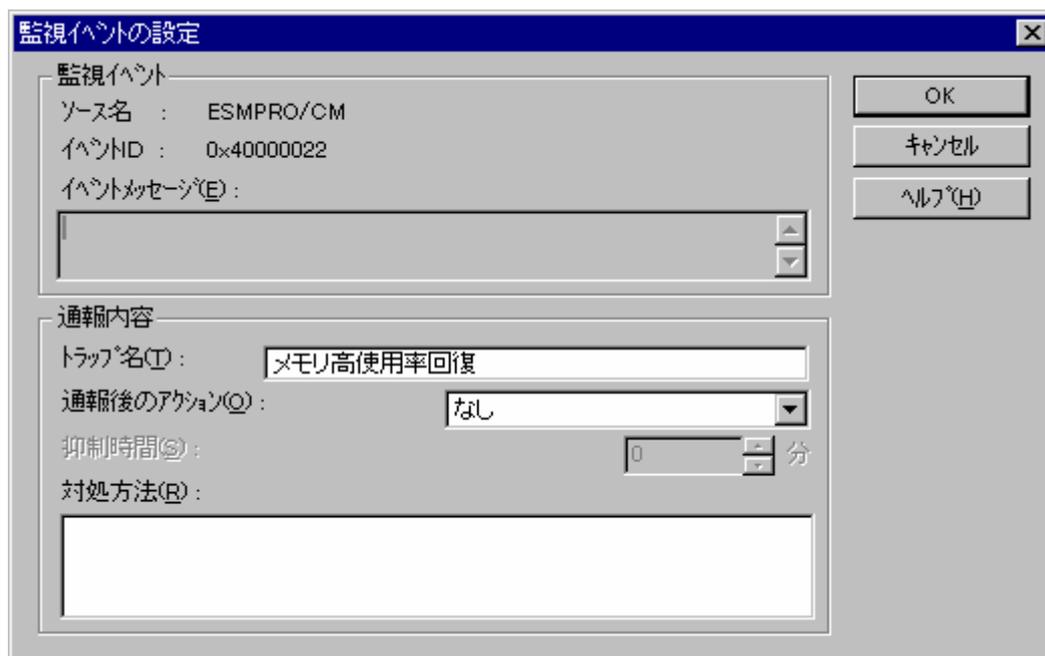
* 監視DMIイベントの指定方法

1. クラス名を選択してください。
2. インジケーションリストから、通報対象としたいインジケーションを選択します。
3. <追加> ボタンを押下すると、選択されたインジケーションが監視インジケーション一覧に移動します。
4. 通報対象インジケーションを削除したいときは、監視インジケーション一覧からインジケーションを選択して<削除> ボタンを押下して削除してください。
5. <OK> ボタンを押下してください。

注意：ツリーのクラス名から「監視インジケーションの指定」ダイアログボックスを開いた場合は、クラス名は淡色表示となり、選択できません。

5.3.4 監視イベントの設定

メインウィンドウでイベントツリーのイベントIDをマウスでクリックし、マウスの右ボタンをドラッグして現れるメニューにて「監視イベントの設定」を選択して設定を行います。



監視イベントの設定ダイアログボックスのスクリーンショット。タイトルバーには「監視イベントの設定」とあり、閉じるボタン（X）があります。ダイアログは2つの主要なセクションに分かれています。

監視イベント

- ソース名 : ESMPRO/CM
- イベントID : 0x40000022
- イベントメッセージ(E): [空のテキストボックス]

通報内容

- トラップ名(T): [メモリ高使用率回復]
- 通報後のアクション(O): [なし]
- 抑制時間(S): [0] 分
- 対処方法(R): [空のテキストボックス]

右側には「OK」、「キャンセル」、「ヘルプ(H)」のボタンが並んでいます。

*ソース名

ソース名が表示されます。

*イベントID

イベントIDが表示されます。

*イベントメッセージ

メッセージが表示されます。

*トラップ名

通報する項目に対するトラップ名を入力してください。

トラップ名は、通報時に通報されたトラップの一覧を表示するときに使用される、トラップの種類を表すための文字列です。40バイト(半角文字で40文字、全角文字で20文字)以内で指定してください。

*通報後のアクション

通報後のアクションを選択してください。

*抑制時間

通報する項目に対する通報抑制時間を設定してください。

指定した抑制時間中に発生した同一イベントは、通報されなくなります。

0～1440分(24時間)の間で設定してください。0分を設定すると抑制はされず、すべてのイベントが通報されます。

抑制時間の設定は、ESMPRO/AlertManagerまたはエクスプレス通報サービスがインストールされた環境でのみ有効です。

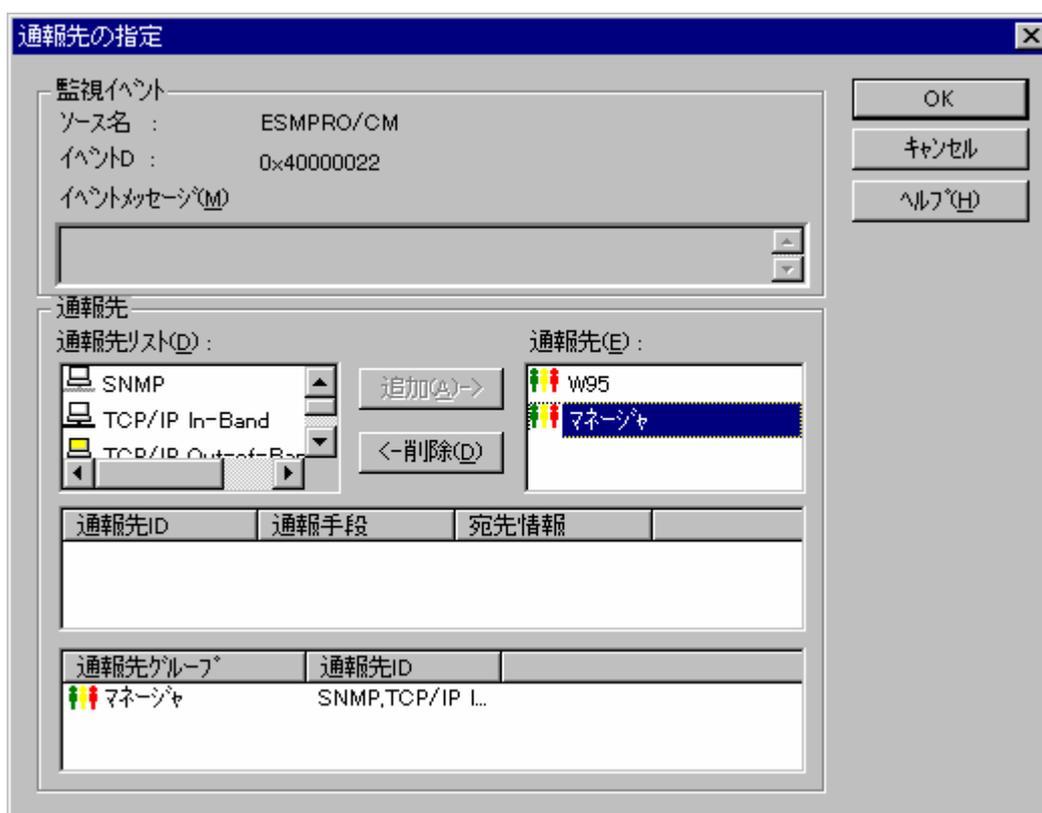
*対処方法

通報する項目に対する対処方法を設定してください。

511バイト(半角文字で511文字、全角文字で255文字)以内です。改行時も2バイト使用します。

(1) 通報先の設定

メインウィンドウでイベントツリーのイベントIDをマウスでクリックし、マウスの右ボタンをドラッグして現れるメニューにて[通報先の指定]を選択して設定を行います。



*ソース名

ソース名が表示されます。

*イベントID

イベントIDが表示されます。

*イベントメッセージ

メッセージが表示されます。

***通報先リスト**

通報先ID(またはグループ)のリストが表示されます。

***通報先**

通報対象のID(またはグループ)の一覧が表示されます。

*** <追加> ボタン**

通報先リストで選択したIDを、通報先ID一覧に移動します。

*** <削除> ボタン**

通報先一覧で選択したIDを、通報先リストに移動します。

***IDリスト**

通報先IDおよび通報先ID一覧で選択されたIDの情報が表示されます。

***グループリスト**

通報先IDリストおよび通報先ID一覧で選択されたグループの情報が表示されます。

[通報先の指定方法]

1. 通報先リストから、通報したいID(またはグループ)を選択します。
2. <追加> ボタンを押下すると、ID(またはグループ)が通報先ID一覧に移動します。
3. ID(またはグループ)を通報対象から削除したい場合は、通報先ID一覧からID(またはグループ)を選択して<削除> ボタンを押下し、ID(またはグループ)を通報先IDリストに移動します。
4. <OK> ボタンを押下してください。

5.3.5 監視DMIイベントの設定

メインウィンドウでDMIイベントツリー(「DMIインジケーション」ツリー)のインジケーション“イベントの種類(イベントの重要度)”をマウスでクリックし、マウスの右ボタンをドラッグして現れるメニューにて「監視インジケーションの設定」を選択して設定を行います。



***コンポーネント名**

コンポーネント名が表示されます。

***クラス名**

クラス名が表示されます。

***イベントの種類**

イベントの種類が表示されます。

***イベントの重要度**

イベントの重要度が表示されます。

***トラップ名**

通報する項目に対するトラップ名を入力してください。

トラップ名は、通報時に通報されたトラップの一覧を表示するときに使用される、トラップの種類を表すための文字列です。64バイト(半角文字で64文字、全角文字で32文字)以内で指定してください。

***通報後のアクション**

通報後のアクションを選択してください。

***抑制時間**

通報する項目に対する通報抑制時間を設定してください。

指定した抑制時間中に発生した同一イベントは、通報されなくなります。

0～1440分(24時間)の間で設定してください。0分を設定すると抑制はされず、すべてのイベントが通報されます。

抑制時間の設定は、ESMPRO/AlertManagerまたはエクスプレス通報サービスがインストールされた環境でのみ有効です。

***詳細情報**

通報するイベントに関する詳細情報を設定してください。

511バイト(半角文字で511文字、全角文字で255文字)以内です。改行時も2バイト使用します。

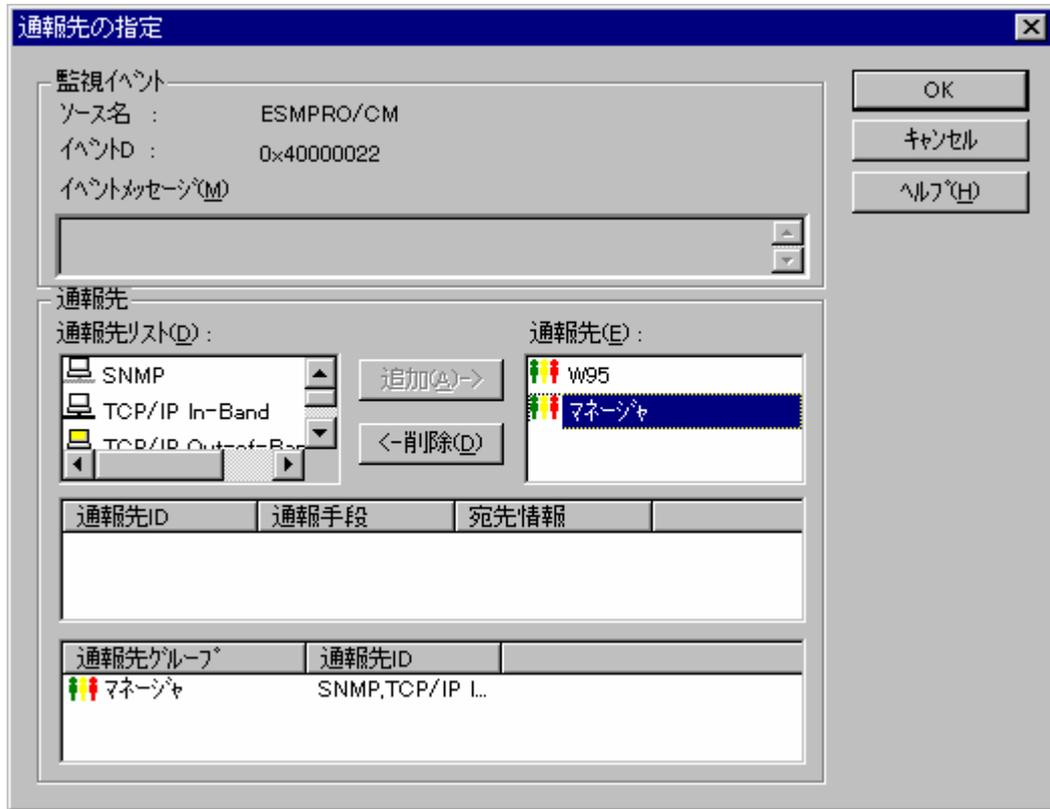
***対処方法**

通報する項目に対する対処方法を設定してください。

511バイト(半角文字で511文字、全角文字で255文字)以内です。改行時も2バイト使用します。

5.3.6 通報先の指定（監視イベント）

メインウィンドウでイベントツリーのイベントIDをマウスでクリックし、マウスの右ボタンをドラッグして現れるメニューにて「通報先の指定」を選択して設定を行います。



*ソース名

ソース名が表示されます。

*イベントID

イベントIDが表示されます。

*イベントメッセージ

メッセージが表示されます。

*通報先リスト

通報先ID(またはグループ)のリストが表示されます。

*通報先

通報対象のID(またはグループ)の一覧が表示されます。

* <追加> ボタン

通報先リストで選択したIDを、通報先ID一覧に移動します。

* <削除> ボタン

通報先一覧で選択したIDを、通報先リストに移動します。

***通報先ID**

通報先IDおよび通報先ID一覧で選択されたIDの情報が表示されます。

***通報先グループ**

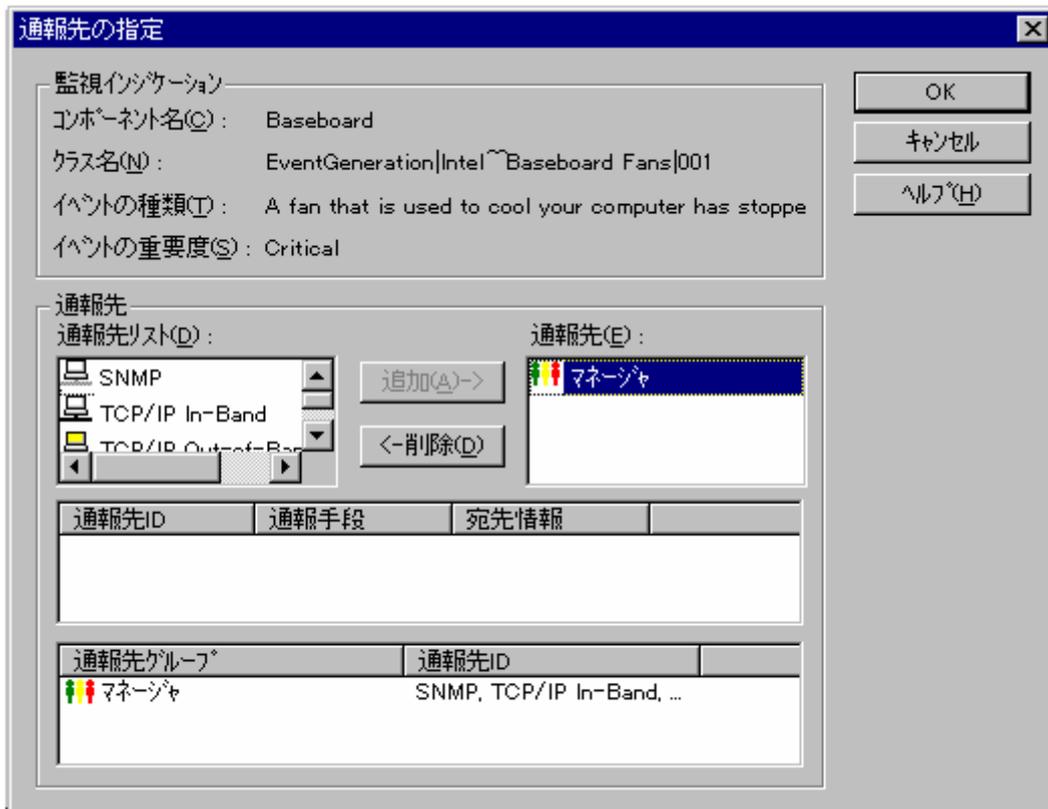
通報先IDリストおよび通報先ID一覧で選択されたグループの情報が表示されます。

[通報先の指定方法]

1. 通報先リストから、通報したいID(またはグループ)を選択します。
2. <追加> ボタンを押下すると、ID(またはグループ)が通報先ID一覧に移動します。
3. ID(またはグループ)を通報対象から削除したい場合は、通報先ID一覧からID(またはグループ)を選択して<削除> ボタンを押下し、ID(またはグループ)を通報先IDリストに移動します。
4. <OK> ボタンを押下してください。

5.3.7 通報先の指定（監視DMIイベント）

メインウィンドウでDMIイベントツリー（「DMIインジケーション」ツリー）のインジケーション“イベントの種類（イベントの重要度）”をマウスでクリックし、マウスの右ボタンをドラッグして現れるメニューにて「通報先の指定」を選択して設定を行います。



*コンポーネント名

コンポーネント名が表示されます。

*クラス名

クラス名が表示されます。

*イベントの種類

イベントの種類が表示されます。

*イベントの重要度

イベントの重要度が表示されます。

*通報先リスト

通報先ID(またはグループ)のリストが表示されます。

*通報先一覧

通報対象のID(またはグループ)の一覧が表示されます。

* <追加> ボタン

通報先リストで選択したIDを、通報先ID一覧に移動します。

* <削除> ボタン

通報先一覧で選択したIDを、通報先リストに移動します。

*IDリスト

通報先IDおよび通報先ID一覧で選択されたIDの情報が表示されます。

*グループリスト

通報先IDリストおよび通報先ID一覧で選択されたグループの情報が表示されます。

*通報先の指定方法

1. 通報先リストから、通報したいID(またはグループ)を選択します。
2. <追加> ボタンを押下すると、ID(またはグループ)が通報先ID一覧に移動します。
3. ID(またはグループ)を通報対象から削除したい場合は、通報先ID一覧からID(またはグループ)を選択して<削除> ボタンを押下し、ID(またはグループ)を通報先IDリストに移動します。
4. <OK> ボタンを押下してください。

5.3.8 通報テスト

アラート通報機能では、設定した内容を確認するためのテスト通報をサポートしています。テスト通報には、以下の2種類の方法があり、どちらもボタンひとつで容易に実行できます。

(1) 通報手段での宛先設定が正しくできたかどうかを確認する方法

通報手段それぞれの宛先設定画面から実行してください。

(2) テストイベントを発生させて、監視対象イベントに結び付けた宛先への通報を実際にシミュレートする方法

メインウィンドウでイベントツリーのイベントIDをマウスでクリックし、マウスの右ボタンをドラッグして現れるメニューにて[通報テスト]を選択してください

注意：以下の設定を行っているかどうか確認してから、テストしてください。

通報手段および通報先(宛先)の設定を行っている。

通報手段の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)に設定している。

5.3.9 通報手段に応じた設定

基本設定を設定するには

「通報基本設定」ダイアログの「通報手段の設定」プロパティにてリストから通報手段を選択して、<設定...> ボタンを押して表示されるダイアログにて設定を行います。

宛先設定を設定するには

「通報先リストの設定」ダイアログボックスのID設定時に通報手段リストから通報手段を選択して、「宛先設定...」ボタンを押して表示されるダイアログにて設定を行います。

(1) マネージャ通報(SNMP)

基本設定、宛先設定ともにアラート通報機能で設定する項目はありません。

Windows でSNMPサービスの設定を行ってください。

相手マネージャの宛先(トラップ送信先)もSNMPサービスにて設定してください。

(2) マネージャ通報(TCP/IP In-Band)

基本設定の必要はありません。

宛先設定では、以下の設定を行ってください。



*IPアドレス(またはホスト名)

相手マネージャのIPアドレス(またはホスト名)を設定します。

相手マネージャのIPアドレス(またはホスト名)は必ず指定してください。

注意：設定しようとする相手マネージャが、すでにSNMPサービスのトラップ送信先として指定されている場合、マネージャ通報(TCP/IP In-Band)は設定しないでください。

SNMPサービスのトラップ送信先に同じIPアドレス(またはホスト名)を重複して設定しないように注意してください。

重複して設定してしまった場合、アラートは複数通知されてしまいます。

*ポート番号

ソケット間通信で使用するポート番号を設定することができます。

この番号は、CMクライアントと相手マネージャで同じ値を設定する必要があります(初期値はともに31134です)。

初期値に問題がない限り、設定を変更しないでください。

参考：初期値に問題がある場合、6001から65535の範囲で番号を変更してください。

[初期値]ボタンを押すと、初期値(31134)に戻すことができます。

変更した場合、必ず相手マネージャ側でも設定を変更してください。これはマネージャがインストールされているコンピュータで設定ツールを実行し、通報基本設定の通報受信設定 - エージェントからの受信(TCP/IP)の設定にて行います。

*** <OK> ボタン**

設定した情報を登録し、このダイアログボックスを閉じます。

*** <キャンセル> ボタン**

設定した情報を登録せずに、このダイアログボックスを閉じます。

*** <通報テスト> ボタン**

通報テストを行う場合、このボタンを押します。

テスト結果はメッセージにて確認できます。

(3) マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)

基本設定の必要はありません。

宛先設定を行う前に、リモートアクセスサービスの構成を行ってください。リモートアクセスサービスのエントリを追加設定してください。

リモートアクセスサービスのエントリを設定していない場合、宛先設定を行えません。

宛先設定では、以下の設定を行ってください。

マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)の設定

IPアドレス(またはホスト名)① : 255.255.255.255

リモートアクセスサービスのエントリ選択

使用するエントリ(E) : MANAGER_TOKYO

ユーザ名(U) : administrator

パスワード(P) : *****

ポート番号(P) : 31134 初期値(D)

OK

キャンセル

通報テスト(R)

ヘルプ(H)

***IPアドレス(またはホスト名)**

相手マネージャのIPアドレス(またはホスト名)を設定します。

相手マネージャのIPアドレス(またはホスト名)は必ず指定してください。

注意：設定しようとする相手マネージャが、すでにSNMPサービスのトラップ送信先として指定されている場合、マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)は設定しないでください。SNMPサービスのトラップ送信先に同じIPアドレス(またはホスト名)を重複して設定しないように注意してください。
重複して設定してしまった場合、アラートは複数通知されてしまいます。

***リモートアクセスサービスのエントリ選択**

「使用するエントリ」リストからエントリを選択してください。

***ユーザ名**

リモートアクセスサービスの認証を行うために、選択したエントリのユーザ名を入力してください。

***パスワード**

リモートアクセスサービスの認証を行うために、選択したエントリのパスワードを入力してください。

***ポート番号**

ソケット間通信で使用するポート番号を設定することができます。
この番号は、CMクライアントと相手マネージャで同じ値を設定する必要があります(初期値はともに31134です)。
初期値に問題がない限り、設定を変更しないでください。

参考：初期値に問題がある場合、6001から65535の範囲で番号を変更してください。

<初期値> ボタンを押すと、初期値(31134)に戻すことができます。

変更した場合、必ず相手マネージャ側でも設定を変更してください。これはマネージャがインストールされているコンピュータで設定ツールを実行し、通報基本設定の通報受信設定 - エージェントからの受信(TCP/IP)の設定にて行います。

*** <OK> ボタン**

設定した情報を登録し、このダイアログボックスを閉じます。

*** <キャンセル> ボタン**

設定した情報を登録せずに、このダイアログボックスを閉じます。

*** <通報テスト> ボタン**

通報テストを行う場合、このボタンを押します。
テスト結果はメッセージにて確認できます。

5.4 中継エージェント

エージェントPCにおいて、「スタート」メニューから[プログラム] [ESMPRO_CM] [エージェント設定]を選択することにより「ESMPRO/CM CMINV SG TOOL」が起動されます。



* マネージャ名

構成情報ファイルを転送するCMマネージャのホスト名を指定します。本項目が指定されているときのみESMPRO/CM CMINV Serviceが起動します。

* 構成情報通知契機

構成情報ファイルをCMマネージャに転送する契機を、以下のラジオボタンで選択します。本項目はマネージャ名が入力されているときのみ指定することができます。既定値は「CMクライアント検出時」です。

・ CMクライアント検出時

CMクライアントからの構成情報ファイルの転送を検出すると直ちにCMマネージャに転送します。

・ 一定時間間隔毎

一定時間間隔毎に構成情報ファイルをCMマネージャに転送します。通知間隔を(5 ~ 180)の範囲で分単位に指定できます。

* <OK> ボタン

システム動作環境情報の設定を有効にし、情報を保存して CMINV SG TOOL を終了します。

* <キャンセル> ボタン

動作環境情報の設定を無効にして、CMINV SG TOOL を終了します。

* <ヘルプ> ボタン

ヘルプを表示します。

5	設定ツール	5-1
5.1	マネージャオプション設定ユーティリティ	5-1
5.1.1	CMマネージャオプション画面	5-2
5.1.2	CMデータビューアオプション画面	5-3
5.1.3	統合マネージャオプション画面	5-3
5.1.4	データベースオプション画面	5-4
5.1.5	マネージャの情報画面	5-5
5.2	クライアント設定ユーティリティ	5-5
5.3	アラートマネージャ(設定ツール)	5-7
5.3.1	基本設定	5-10
5.3.2	通報先設定	5-13
5.3.3	監視DMIイベントの指定	5-17
5.3.4	監視イベントの設定	5-18
5.3.5	監視DMIイベントの設定	5-21
5.3.6	通報先の指定 (監視イベント)	5-23
5.3.7	通報先の指定 (監視DMIイベント)	5-25
5.3.8	通報テスト	5-26
5.3.9	通報手段に応じた設定	5-27
5.4	中継エージェント	5-30